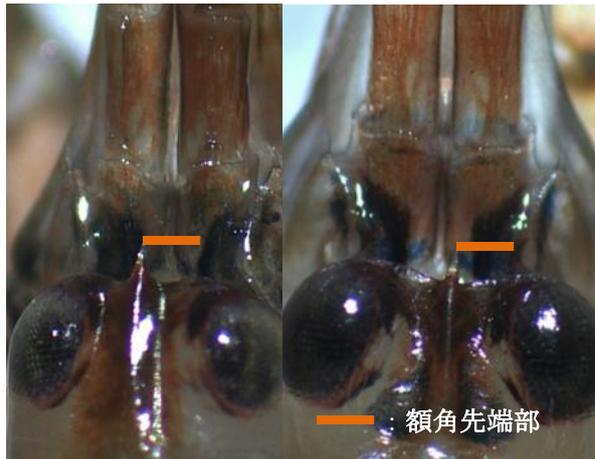


## 愛媛県愛南町御荘湾で得られたイソテッポウエビ

中川孝紀<sup>1</sup>・高木基裕<sup>2</sup><sup>1</sup> 愛媛大学大学院農学研究科<sup>2</sup> 愛媛大学南予水産研究センター写真1 *Alpheus lobidens* イソテッポウエビ  
(上: TKPM-AR 3237, 下: TKPM-AR 3238)写真2 頭胸甲前部 (左: TKPM-AR 3237,  
右: TKPM-AR 3238)

## 種の記録

Alpheidae テッポウエビ科

*Alpheus lobidens* イソテッポウエビ (写真1)

標本 徳島県立博物館節足動物標本 (TKPM-AR) 3237: 全長 27.3mm, 頭胸甲長 8.3mm, 2024 年 6 月 19 日採集. 3238: 全長 24.2mm, 頭胸甲長 8.2mm, 2024 年 5 月 8 日採集. 採集場所: 愛媛県愛南町御荘湾湾奥 (32.9603N, 132.5574E). 採集方法: 底泥掘削.

## 種の特徴

各標本ともに腹部が茶褐色の幅広い横帯となること, 第二, 第四腹節の後縁関節部に一對の黒点があること, 大鉗の背鞍部の後ろにある肩が丸いことがイソテッポウエビの特徴 (吉郷, 2009) を示したため, 本種と同定した. なお, 標本はいずれも額角の先端が第一触角柄部基節第一節先端まで到達しない (写真 2), 3238 個体は触角鱗が第一触角柄部基節第三節を超えるが, 3237 個体では超えない, 3238 個体では大鉗が未発達であるなどの特徴がみられた.

## 備考

イソテッポウエビ類は小鉗が性的二型を示し, オスでは可動指の幅が広く, メスでは可動指が細長い (有山, 2017). 標本は 3237 個体で小鉗が細長く, メスの特徴を示していた. イソテッポウエビは近年, よく似た近縁種が多数いることが明らかになっており, 分類が混乱している (有山, 2017). 今回の標本は額角の長

さが本種と異なり, 触角鱗の長さに個体差が見られたことから, それぞれ別種である可能性も考えられるため, 検討が必要である. なお, 御荘湾ではテッポウエビ類の記録として, テッポウエビ *Alpheus brevicristatus* およびマングローブテッポウエビ *Alpheus richardsoni* の生息が確認されているのみであり (環境省自然環境局生物多様性センター, 2005), 今後詳細な生息状況調査が求められる.

## 引用文献

- 有山啓之. 2017. 大阪湾南東部岩礁域で採集されたイソテッポウエビについて. 大阪市立自然史博物館研究報告, 71: 1-9.
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2005. 第 6 回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 (愛媛県) 報告書. 環境省自然環境局・生物多様性センター. 230pp.
- 吉郷英範. 2009. 日本の河口域とアンキアラインで確認されたテッポウエビ科エビ類. 比和科学博物館研究報告, 50: 221-273, pls. 1-4.

(2024 年 10 月 22 日受付, 2024 年 11 月 1 日公開)

連絡先: 高木基裕 (e-mail.takagi.motohiro.mc@ehime-u.ac.jp)

(Takanori Nakagawa and Motohiro Takagi. 2024. First record of *Alpheus lobidens* (Alpheidae) from Misho Bay, Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 24012)